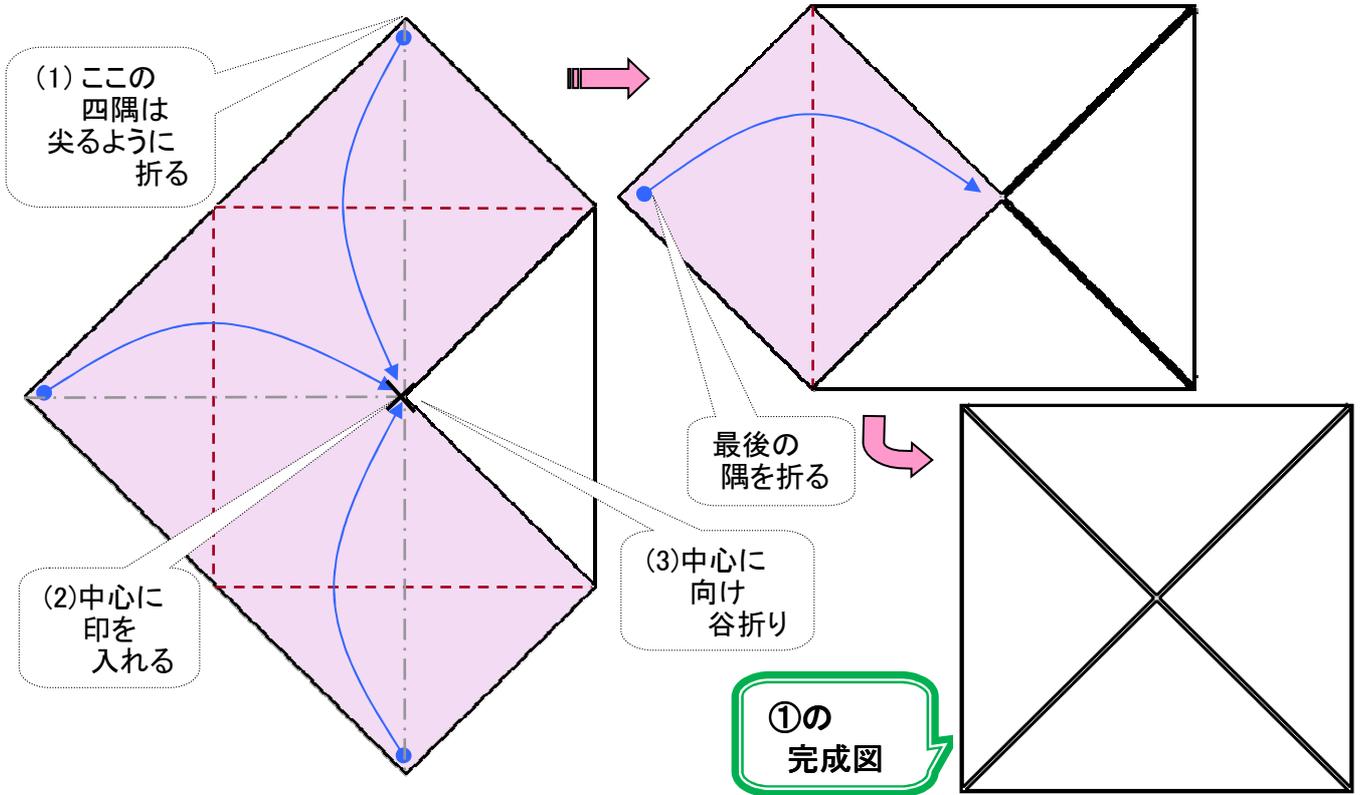


アゲハ蝶の折り方

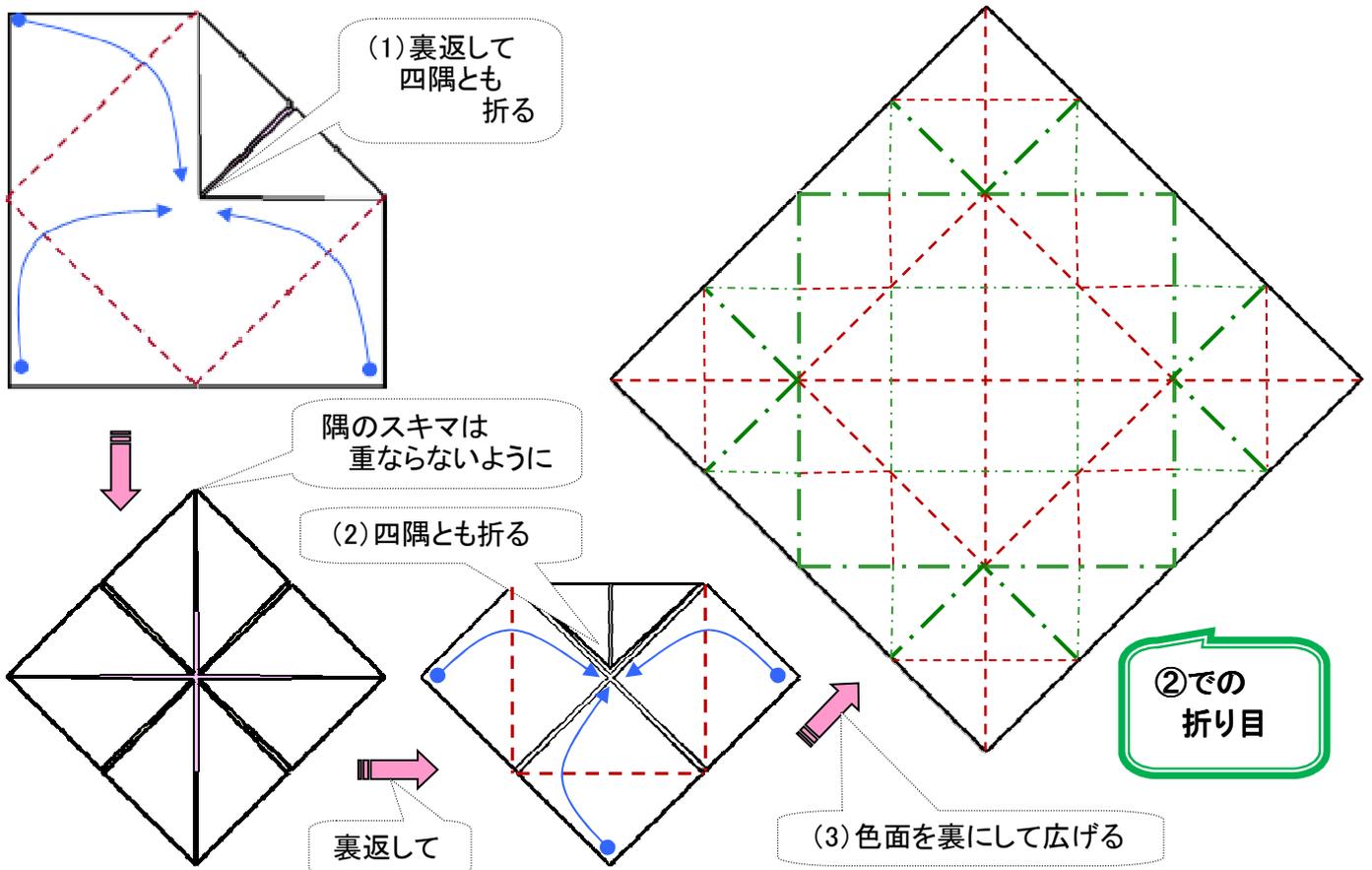


アゲハ蝶の折り方は、二艘舟やだまかし舟から発展した折り方です。

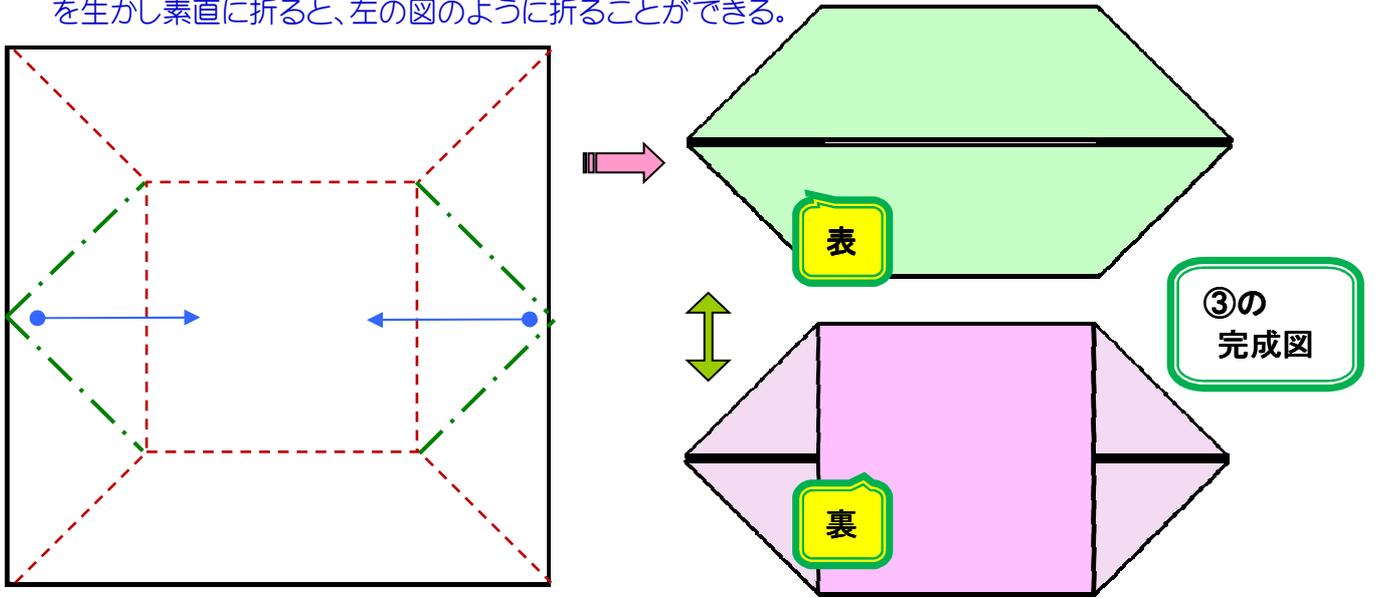
- ① 15cmの折り紙を準備し、(1)色面を「裏」にして対角線を谷折りで折り(図は省略)、もとに広げる。
 (2)今度は色面を図の通り「表」にして、色面の中心に目印をつけ、(3)向け四隅を折る。



- ② ①を裏返し、(1)図のように四隅とも折る。次いで⑤の作業のために、(2)裏返しさらに四隅ともに折る。
 (3)最後に色面を「裏」にして広げると次のような折り目がついている。

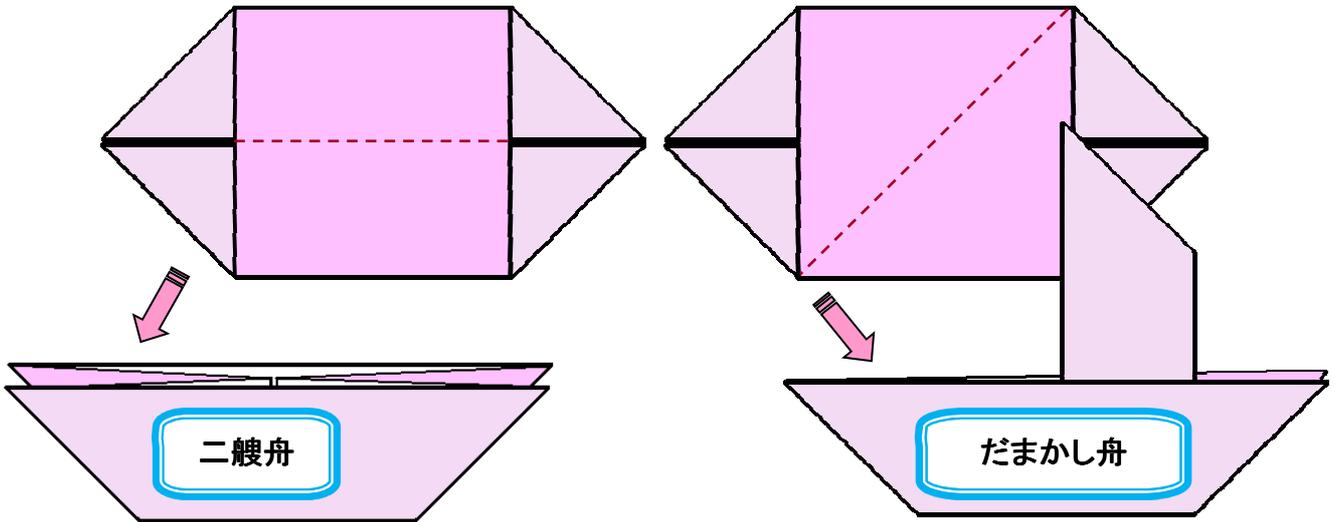


③ ②の斜めの図を、次のように正方形を素直に縦横で置き、②で入れた多数の折り目のうち次の折り目だけを生きし素直に折ると、左の図のように折ることができる。



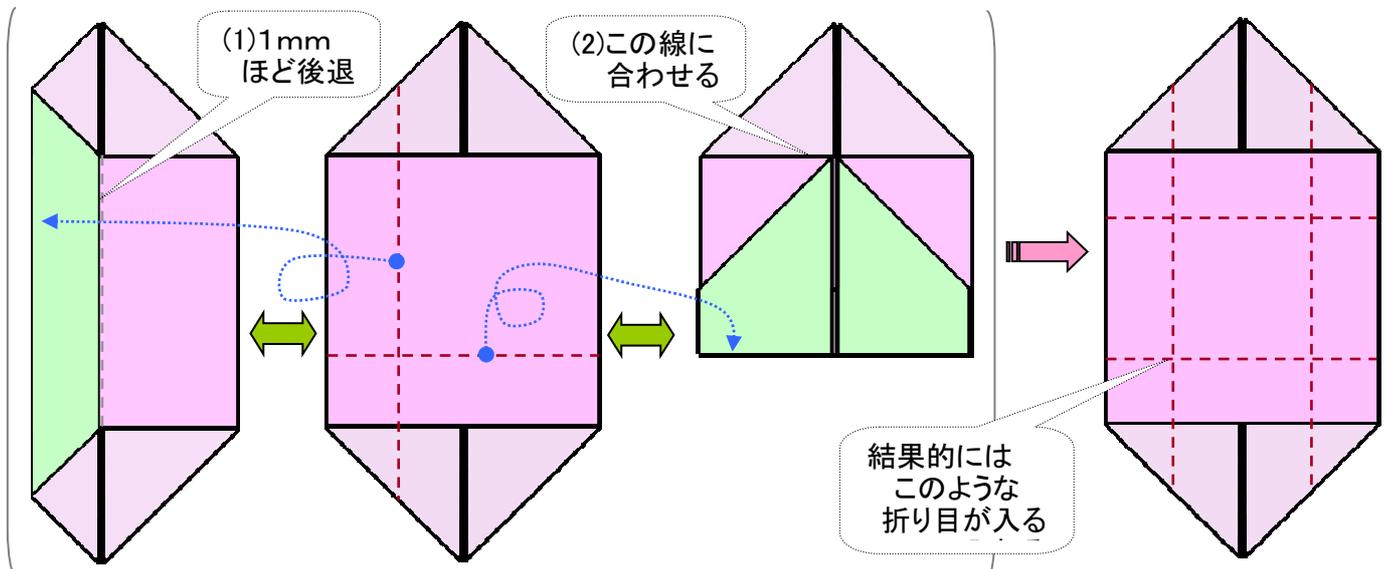
参考:「二艘舟」と「だまかし舟」

③の裏から次の折り方で二種類の舟を作ることができる。

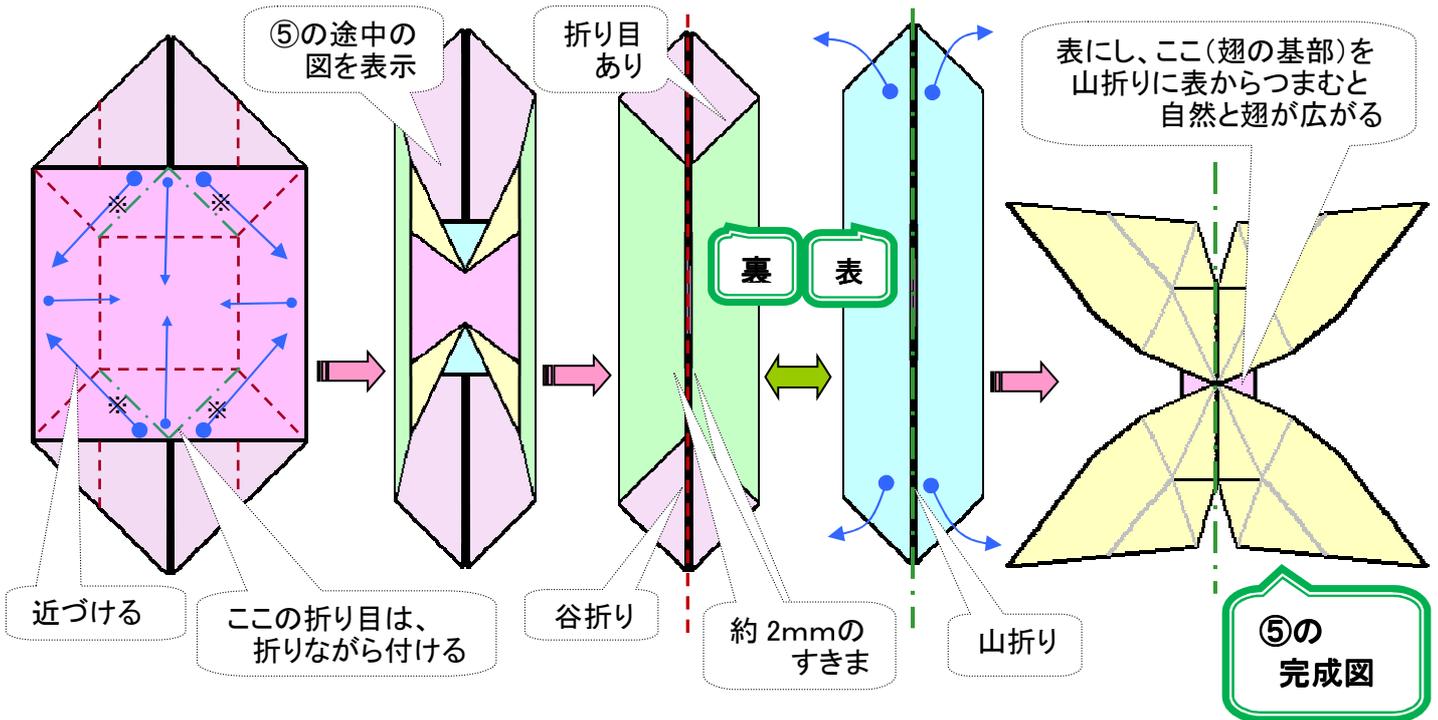


④ ③の裏面を出し、⑤の作業準備として、図の(1)縦、(2)横の操作で折り目だけつける。

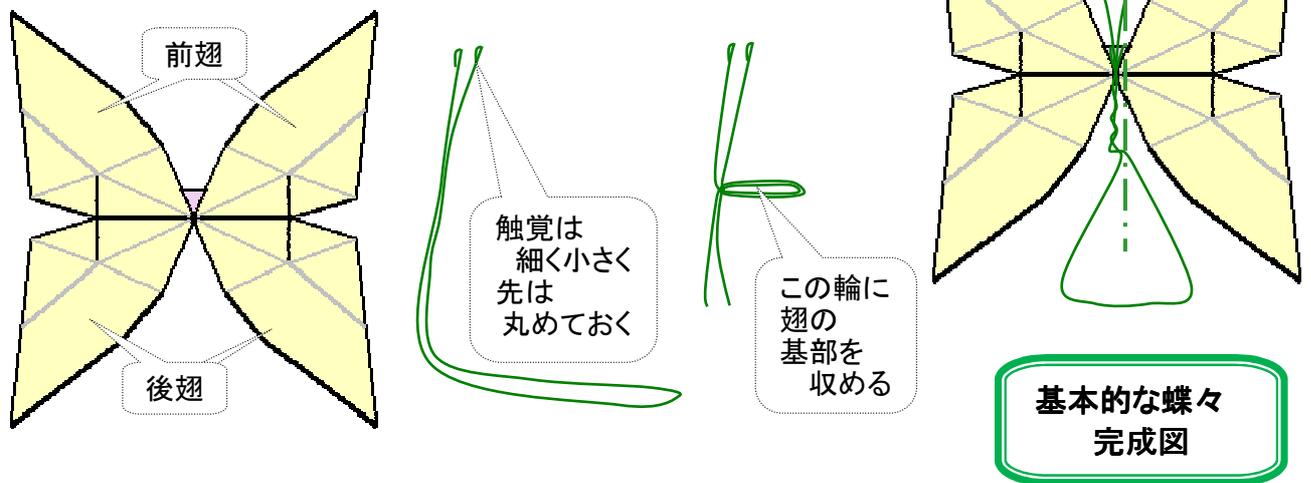
(ただし、(1)を折る時に、中央に約2mm程度のすきまができるように折ると⑤の作業がうまく行く。)



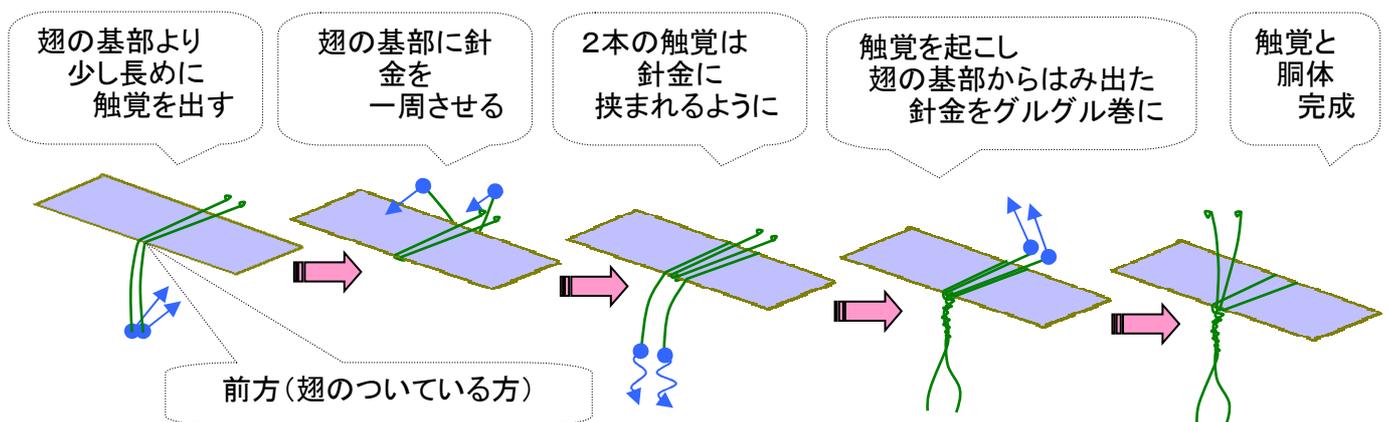
⑤ 次の折り目を生かし、中心に寄せるように折る。(ただし、図中の山折りの折り目(*)はついていないので、作業中に折り目をつける。)折り目のある方を裏とし、縦半分に谷折りにすれば、蝶々の翅が4枚現れる。



⑥ ⑤の完成図を90°回転し、触覚と胴体をつければ、蝶々の基本形の完成である。翅の基部を裏から持って、蝶々が飛んでいるように動かしたり、翅の基部を輪ゴムではさんで固定する方法もあるが、次の⑦で紹介するように、細い手芸用の針金を使い、触覚と胴体を作ると、持つのに、取り付けのにも好都合である。

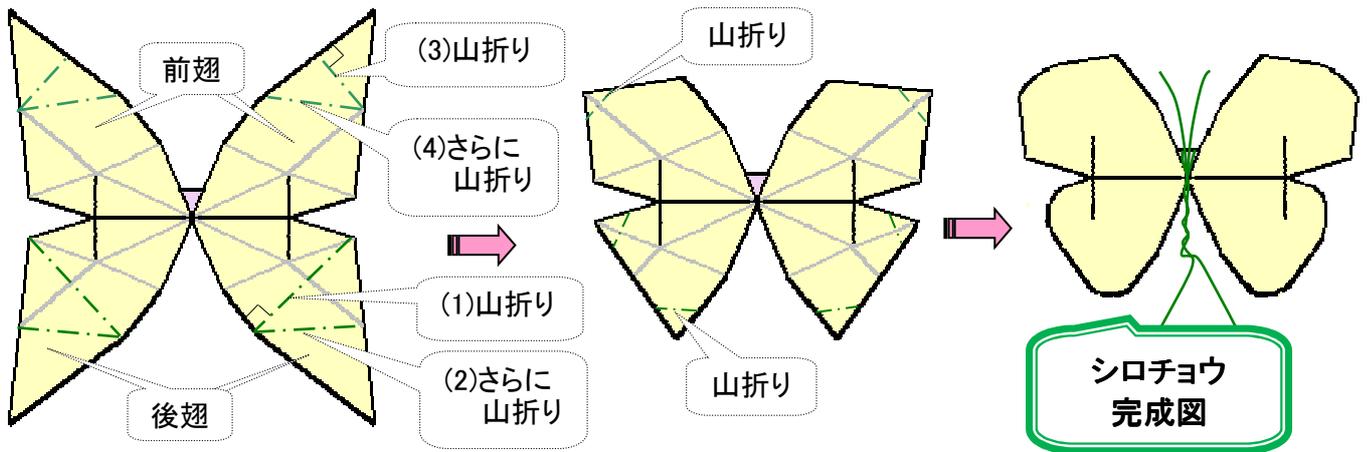


⑦ 翅の基部への針金の付け方(針金は70cmぐらいが適当)



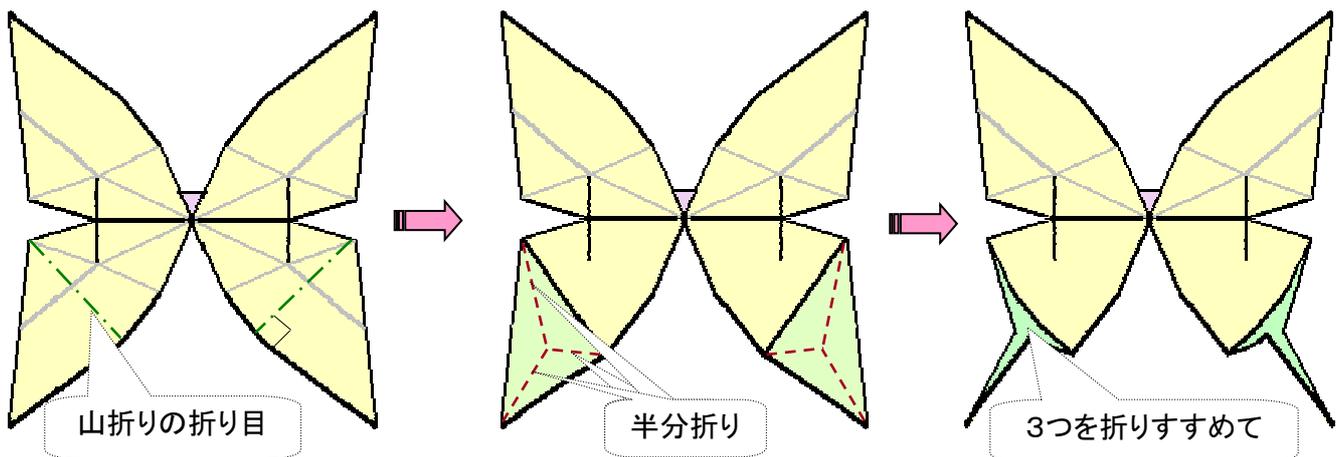
シロチョウの折り方 (モンシロシロチョウなどは、後翅が丸いのが特徴)

- ⑧ 後翅の先端にかけて直角二等辺三角形の部分があるので、図のように(1)(2)と2回山折りにし、後翅の裏に完全に隠すように折り曲げる。前翅も図のように(3)(4)と折る。後翅は、ほぼ正三角錐のくぼみとなる。両翅のやや尖った角を山折りで裏に折り曲げ、爪でしごいて丸く仕上げ。最後に触覚を付け完成。

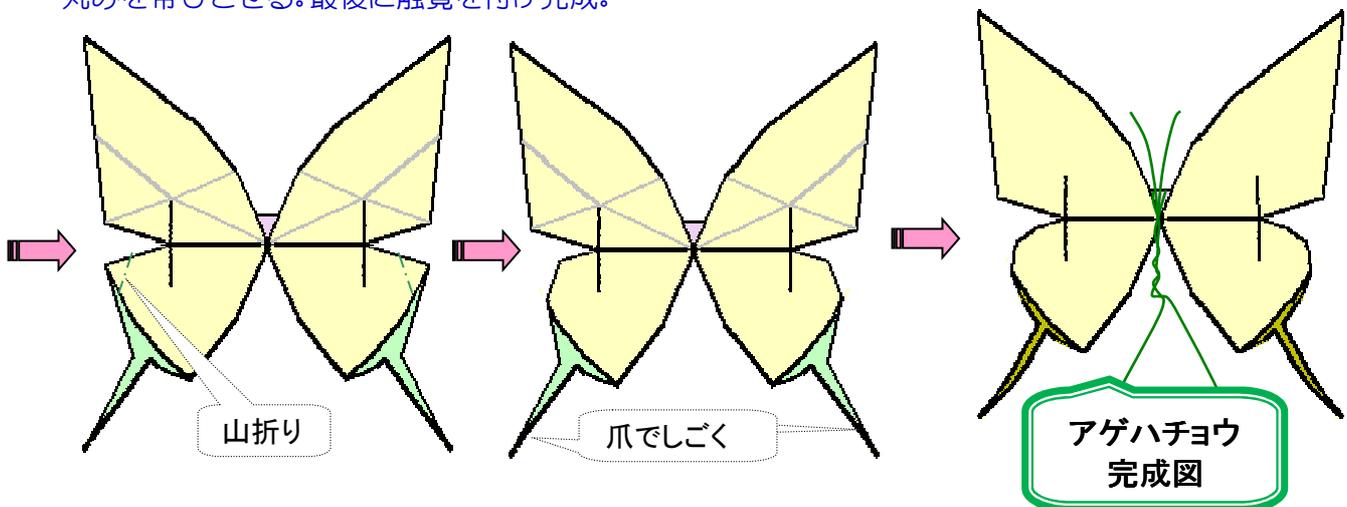


アゲハチョウの折り方 (アゲハチョウは、後翅の先端に突起があるのが特徴)

- ⑨ 後翅の先端にかけて直角二等辺三角形の部分の少し山折りにする。さらに、この直角二等辺三角形の部分を後翅の突起とするために、3つの頂点の角をそれぞれ半分に谷折りにして、くぼませる。



- ⑩ 突起の上部のトンガリ部分を山折りで、裏側に折り曲げ、折り曲げ部分および突起を爪でしごき、丸みを帯びさせる。最後に触覚を付け完成。



応用 ⑧⑨の作り方を手本に、突起もいろいろ変化したものが作れます。是非チャレンジしてください。